年始まはり

三遊亭円朝

青空文庫

私は昨年の十二月芝愛宕下桜川町へ越しまして、此春は初湯に入りたいと存じ、つい近辺の銭湯にまゐりまして「初湯にも洗ひのこすや臍のあか」といふのと、「をしげなくこぼしてはいる初湯かな」と二句やりました。板の間には余り人が居りませぬで、四五人居りました。此湯は昔風の柘榴口ではないけれども、はいる処が一寸薄暗くなつて居ります。板の間に留桶を置いて洗つてゐる年輩の人が、御近辺のお心安い方と見えて言葉をかけ、甲「お目出度うございます。乙「はい、お目出度うございます。甲「昨日は御年頭※りでございましたか。乙「いやもう草臥れて……年を老つてはいけませぬ、実にがツかりしました。甲「へー御遠方をお歩きでしたか。乙「えゝ初め宅を出まして、それから霊南坂を上つて麻布へ出ました、麻布から高輪へ出まして、それから芝へ帰つて来て、新橋を渡り、煉瓦通りを※りまして、京橋から日本橋から神田へ出ましてな、下谷から浅草を※つて、それから貴方、本郷台へかゝりました、それから牛込へ出まして、四谷から麹町を※つて帰つてまゐりまして、いやもうがつかり致しました。と話をしてゐると、湯の中で、甲「どうしたい昨日は。乙「どうも草臥れたつてねえサ、ひどい草臥れやうをしたぜ。甲「どうしたえ。乙「どうしたつて無えぢやア無えか、昨日は年始※りだ、朝家を出て霊南坂を上つて、麻布へ出たんだ、麻布から高輪へ出て、それから芝へ帰つて来て、新橋を渡り、煉瓦通りを※つて神田へ出て、下谷から浅草へ出たらう、それから本郷台へ上つて、牛込へ出て四谷から麹町へ出て帰つて来た、いやもうが

つかりした。と云ふのを板の間にゐる前の人が聞いて、「誰だ己の真似をするのは。と云つて腹を立て、其男を引摺り出して打ん殴つたところが、昨日自分の連れて歩いた車夫でございました。

（拠武陽生筆記）

青空文庫情報

底本：「明治の文学　第9巻　三遊亭円朝」筑摩書房
　　2001（平成13）年8月25日初版第1刷発行
底本の親本：「定本　円朝全集　巻の13」世界文庫
　　1964（昭和39）年6月発行
入力：門田裕志
校正：noriko saito
2009年6月19日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

年始まはり

三遊亭円朝

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/